

基地はいらない！ 辺野古の海を守れ！



全国港湾第八回定期大会で、「辺野古新基地建設反対」を確認し、対策委員会を設置した。具体的な取り組みの第一弾として請願署名の取り組みが確認された。「新基地建設問題とは何か！」を、全国の仲間と共有しよう。

日米同盟の名のもと、沖縄県宜野湾市普天間には「米軍普天間飛行場」がある。一九九五年九月、米兵による少女暴行事件が発生。「日米地位協定」という米軍の一方的、理不尽な協定により、日本側は何もできないのが現状だった。この少女暴行事件が引き金となり、沖縄県民は全土を上げて米軍基地即時撤去を日米両政府に訴えた。

辺野古新基地建設では、滑走路と兵舎など、専用施設工事だけが表にでていますが実は、対岸には大型船が接岸できる軍港の建設も予定されている。

現在、沖縄県には日本全国の米軍専用施設の約74%が集中しています。県全土比率では18.4%となっています。

港湾作業は当然のことながら、港湾運送事業の範囲となり港湾労働者は軍港での作業もあり、時には弾薬や武器なども扱う事もあるはずです。近年では海上自衛艦船が演習目的で那覇港や石垣港に寄港しています。

SOLAS条約の改訂から海上自衛隊の民間港利用が頻繁になり、有事の際の訓練が既成事実化されています。平時においても商業港は自衛隊や軍隊が利用可能になるなど、戦時中の強制使用を疑わずにはられません。

〈発行所〉
全国港湾労働組合連合会
〒144-0052 東京都大田区蒲田5-10-2
日港福会館1F
電話：03-3733-2561
FAX：03-3733-2627
発行人：玉田 雅也
定価：30円（組合費を含む）

(毎月1回15日発行・平成7年8月18日)
第三種郵便物認可
2016年1月 新基地反対号外

全国港湾
NATIONAL FEDERATION OF DOCKWORKERS UNIONS OF JAPAN
(ZENKOKU - KOWAN)

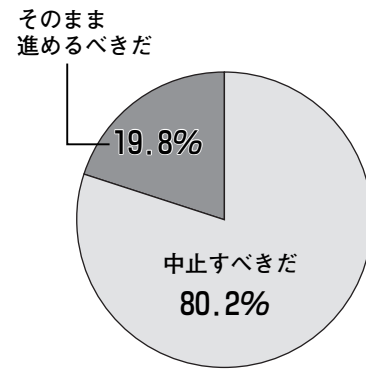
- 全港湾 ●日港労連 ●検数労連 ●検定労連 ●大港労組 ●全倉運
- 全日通 ●北海道港湾 ●東北港湾 ●日本海港湾 ●東京港湾
- 川港労協 ●全横浜港湾 ●駿河港湾 ●名港労協 ●大港労協
- 神戸港湾 ●四国港湾 ●関門港湾 ●博多港湾 ●鹿児島港湾 ●沖縄港湾

基地建設反対！ 港を平和利用せよ！

【問1】 普天間飛行場の名護市辺野古移設計画で政府は海底ボーリング調査を開始した。今後の移設作業についてどう思うか。

- (1) 移設作業をそのまま進めるべきだ (19.8%)
- (2) 移設作業は中止すべきだ (80.2%)

問1 移設作業の今後

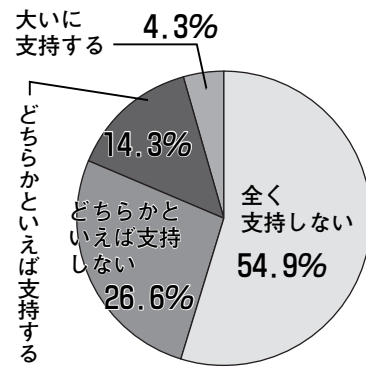


問1：移設作業の今後

【問2】 ボーリング調査を開始した安倍政権の姿勢を支持するか、しないか。

- (1) 大いに支持する (4.3%)
- (2) どちらかといえば支持する (14.3%)
- (3) どちらかといえば支持しない (26.6%)
- (4) 全く支持しない (54.9%)

問2 調査を開始した政権の評価



問2：調査を開始した政権の評価

琉球新報社：沖縄テレビ合同県内世論調査から



名護市辺野古新基地建設は、二〇一三年十二月に当時の沖縄県知事により埋立が承認され、ボーリング調査工事も佳境に入っています。日本政府が発表した工程では、既に行われているボーリング調査を含み、

- ① 関連調査を一〜二年
- ② 本体工事五年
- ③ 引き渡し手続き三年
- ④ 普天間返還を二〇二二年

となつていますが、今日までの現地反対行動の影響や台風といった季節的影響でボーリング調査が遅れています。本体工事を着工して二〇一六年秋頃には埋め立工事に進むとされています。辺野古海岸埋め立は一七二ha、埋め立土砂二一〇〇万m³(二〇tダンプ三五七万台) 分としてその大半を九州地方から運ぶ予定になっています。埋め立土砂は「岩ズリ」と呼ばれ、碎石を主に使うと公表されています。その九州地方で一番多く大量に搬出される予定が門司港です。

沖縄県が新たに定めた「埋め立土砂規制条例」では、環境アセスにもとづく特定外来生物の混入防止、生態系保存維持など、厳しい検査が求められており、辺野古海岸を埋め立てる土砂の搬入は決して容易ではないはずで、

新たに誕生した翁長沖縄県知事は、埋め立承認の取り消し、国交省による代執行に対する訴訟をかまえて地方自治と政府の裁判闘争に発展しています。

署名の取り組みをお願いします